

みずみどり

1997. 11. 6 第3号

発行：いたばし水と緑の会 事務局

〒173 板橋区板橋2-66-1 TEL03-3579-2598

板橋区環境保全課内 FAX03-3579-2589

秋・autumn・深まる！

もう来春の準備がはじまります

みなさんお元気ですか。2か月に1回は出し  
たいといっていたこの通信ですが、第2号以来  
かなり間があいてしまい、申し訳ありません。

さて、今号は、秋の諸活動のまとめとみなさ  
んの感想、意見のご紹介、それと、当面の活動  
スケジュールの紹介です。

春の林をきらきら輝かせたニリンソウは、い  
ま、土の中で根茎の形で静かに眠っています。  
来年になると2月の初めには目を覚ましてモヤ  
シの芽を伸ばしはじめます。そのためのために、  
今年冬は冬の林の手入れを例年より早めて年内に

行う計画を立てました。

さらに、都立赤塚公園大門地区が整備された  
のにもなって、来年の花見時には多くの人々  
が自生地を訪れることが予想されます。林の保  
全の必要性を訴えるPRをかねたパトロール活  
動が絶対に必要になってきています。

また、荒川の自然地回復活動では、いよいよ  
本格的活動着手のためのフィールドワークや検  
討会が始まります。

なお、本誌の題字が決まりました。かがみり  
ようさんにデザインしてもらいました。

ところで、この間、秋の諸活動をうまく運ぶために大忙しで、事務局活動がガタガタになってき  
ました。もっと、集団的に組織的に行うべきだという厳しい指摘がありました。一方で、「水と緑の  
会」の活動のテーマが限られてきて、参加する会員の数も限られてきています。もっと多様なイニシ  
アティブを包み込んで多様なテーマで、広範な人々の参加を得るように運営するべきだという意見が  
強く出されています。勉強もするべきだという声もあります。いずれも、もっともな意見です。

4月の発足以来、駆け足でやってきた活動ですが、この辺できちんと体制建て直しを図るときにき  
ているのかも知れません。みなさんの意見を出し合える機会もつくりたいと思っています。

会員募集中！ 年会費2,000円 郵便振替口座「00170-8-352508 いたばし水と緑の会」

赤塚の森ボランティアのこれからについて

## 赤塚公園と周辺のエコアップ

エコアップとはなんぞや！赤塚公園の自然度を高める意味のエコアップです。

目標は、チョウ、トンボ、カブトムシなど、生き物のすめる環境づくりです。そのために、まず、生き物の目で環境を点検し、トンボなどの水辺にふさわしい場所、カブトムシのゆりかごにふさわしい場所などを探して、生き物の生息環境をつくります。昆虫ファン大歓迎！

やり方として、①赤塚の森を端から端まで順次みんなで点検し、②どのように改善したらよいか考え、③エコアップカルテをつくり、④私たちができることを考えます。⑤赤塚公園管理事務所と相談しながら、⑥計画をたててやっていくことを考えています。

私たちがわからないことも多いので、専門家の話を聞くなど、勉強しながら市民の公園づくりを目指したいと思います。

また、老化現象が目立つ雑木林（なにやら人間社会みたいですが、どんぐりが芽生えてこない雑木林は将来がないそうで・・・）の問題も会員から指摘されていますが、将来の取り組み事項として、しっかり現状調査をし、勉強を積み重ねていきましょう。

- 11月18日（火） 18:30～20:30（飲みながら）世話人会兼事務局体制についての話し合い

○18:30に板橋区環境保全課 集合（地下鉄出口そばに区役所夜間休日出入口があります。受付で「環境保全課に行く」と断ってください。）  
参加者は14日までに環境保全課 番匠(3579)2598までご連絡ください。  
会場：つぼ八（大山駅そば）

- 11月30日（日） 午前10時 美術館前集合  
午前中、赤塚城址公園周辺のチェック、  
午後カルテづくり（13時30分から15時30分）  
会場：赤塚5丁目集会所（赤塚5-16-33「老人いこいの家」内）  
連絡先：坂本（3579-2598 環境保全課）

10月5日の世話人会で、二つの班ができました。カルテづくりと並行して班活動を進めます。

- ピオトープ（生物がやってくる環境）をつくる班

11月30日（日）エコアップカルテ（上記）から始めます。

班リーダーと連絡先 矢田 茂（3973-0998）

小寺 正明（3907-0636）

小屋 弘美（3558-7626）

- 「赤塚城址の林を守る班」

：12月7日（日） 午前10時～12時 赤塚城址公園集合 雨天中止

班リーダーと連絡先 須藤 公夫（3939-6247）

猪鼻 昭二（3933-8269）

# いたほし荒川自然回復団の活動計画

11/16(日) 自然回復ボランティア活動講座 (主催: 環境保全課)

- ・笹目橋緑地にて 9:30西高島平駅改札集合
- ・環境会議で作成したプランを見、現地で改めて考えてみたいと思います。  
クリーンエイドの時の検討会に参加しなかった人、ぜひ参加してください。

11/23(日) 自然回復案の検討会

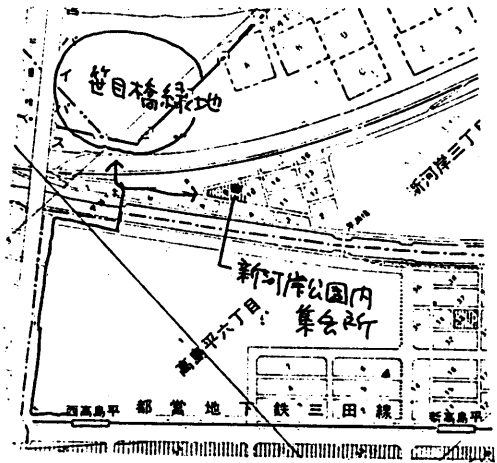
- ・笹目橋緑地に集合 10:00 ~15:00
- ・弁当持参
- ・フィールド調査と  
新河岸公園内集会所で検討会
- ・最終案をめざして検討します。

おしな  
は、加してね

12/ 7(日) 活動の検討会

- ・笹目橋緑地に集合 10:00 ~15:00
- ・弁当持参
- ・フィールド調査と  
新河岸公園内集会所で検討会
- ・工事の市民参加部分についての検討
- ・来年および来年度の活動計画について

水  
勢が  
強くな  
るかも



## 区の花ニリンソウを保存する会の呼びかけ

### ●大門自生地の林の手入れ作業

11月20日~30日まで連続して行います。いずれも、自生地前観察台集合、雨天中止

### ●春のニリンソウ自生地パトロール

期間=1998年3月23日~4月15日までの連日行います。いずれも午前10時~午後3時

当該地は公園再造成工事が済んで、桜の花見にも絶好の場所となり、来年の開花期にはかつてない人出が予想されます。それとともに、林内への人の立ち入りや盗掘も増えかねません。パトロールをきちんと行うことは、林を守るうえでとても重要な活動になります。

これまでは「保存する会」の少数のメンバーで行ってきましたが、これからは「水と緑の会」のみなさんの協力と参加がなければやっていけません。

活動そのものはそれほど難しくありません。また、参加できる時間で結構ですので、みなさんの都合の良い日取りをお知らせ下さい。係で予定表をつくりまします。

連絡先=香取 孝作 (03-3930-2263)

## □赤塚の森ボランティアの世話人会を開きました■□■□■□■□

10月5日、板橋区立美術館で開きました。

4月以来の活動が「ニリンソウを保存する会」の活動に引きづられてきたことの反省から、できるだけいろいろな人が責任を分担して多様な活動が進められるような仕組みづくりについて話し合われました。

結論的には、「保存する会」は会の趣旨であるニリンソウ自生地の保護活動に専念することとして「水と緑の会」に参加と協力を呼びかけるが、その他のテーマでは「水と緑の会」の独自のインシアティブを育てるべきだとして、活動計画欄に紹介したような「大門にピオトープをつくる班」と「赤塚城址裏の林をまもる班」ができました。

どんな林にしたいのか、どんな活動がしたいの

かについても、議論がたたかわされました。

「区報を活用して会の存在をもっとアピールすべし」「参加していない会員も関心をもてるようなテーマをつくるべき」「たとえば、カブトムシもくるような森のための堆肥づくりとか、木に名札をつける活動とか、やることはたくさんある」

「街路樹や公園・緑地をテーマにする活動もあってよい」という意見が出されました。ニリンソウ自生地のこれからについては「そろそろ、林の将来の姿を構想したゾーニングに取りかかるべき」

「本格的な林の手入れのためには講習会などでもっと勉強すべきだ」「水環境の回復も大きなテーマだ」など、これからの課題についても積極的な意見が出されました。

## □板橋環境会議が開かれました■□■□■□■□■□■□■□

昨年のこの会議がきっかけとなってわが会が誕生した、いわば生みの親の集まりです。9月21日、板橋エコポリスセンターで開催されました。今年は昨年のテーマをいっそう具体的に煮詰めるものになりました。

第3分科会では、荒川学会自然環境部会の野村圭祐さんを講師に招いて「荒川の自然と人々のかわり」についてお話をいただき、建設省荒川下流工事事務所などから当該地の状況、諸条件の提示があった後に、「水路」「干潟」「田んぼ・遊び」「木・葦」の4グループに分かれて、具体的な自然回復プランを出し合いました。

第4分科会では、東京都北部公園事務所の委託によりニリンソウ自生地などの植物調査を行った北川淑子さん（東京大学アジア生物資源環境研究センター）と井本郁子さん（日本造園学会会員）のお二人を講師にお招きして、ニリンソウ自生地が都会では貴重な種となったたくさんの植物が生きている林であること、その維持・管理の方向性について問題提起をしていただきました。4つのグループに分かれた討論では、こもごもに林のイメージが語られました。

2つの分科会ともに、これから問われてくる具体的な活動へのみんなの関心を一歩引きつける場となりました。

## □区民が歩いて調べたみどりのマップ展、盛會に終わる■□■□■

5月に板橋区環境保全課が呼びかけた「みどりのマップ」づくりには14人のボランティアが応募して、7.5kmにわたる区内武蔵野台地の崖線に残るみどりの態様を調査しました。その成果を広く区民に見ていただくというのがこのパネル展で、

10月20～22日の3日間、区役所ロビーで行いました。マップの原図展示のほか環境パネル、写真・絵画の展示、ビデオ上映など盛りだくさん。3日間で450人以上の入場者があり、みなさん熱心に見て下さいました。

### 赤塚城址裏の林の手入れと甘煮会に参加して 作業の指示法・安全対策などに意見あり！

中丸町・矢田 茂

10月11日午前10時、区立美術館前集合。

いつものように木村さんが資材をもち、定刻前に着く。参加者に渡す名札と腕章を私に依頼し、木村さんは現場の設営に先行する。

香取さんの指示で、男子は山あいの階段道が土砂の流出で窪みがあり、その補修・復元が作業目的と聞きスコップを持ち作業に取りかかる。最下段の側溝の土砂を除き、上3段までの補修が終わった頃、別の人から、上から流れる雨水を階段横の自然地の凹地に流し込むように指示された。自分一人では大変と、甘煮にかかっていた木村さんに応援を頼み、多くの人も集まってきて、ようやく最初の指示通りに作業が行われるようになった。

伝えなければいけない我々の反省

- ①作業指示は、事前の説明が必要に思える。
- ②とくに、指示者は子女の使う鎌などの使用にともなう危害予防のために、作業内容の指示のみならず、使用上の要領もあわせて指導し、安全・

効率と作業負担の軽減に配慮を願いたい。

③作業指示者は、作業開始後しばらくは持ち場を離れずに、指示の徹底把握に努めて欲しい。

④各作業者は、持ち場の間隔をとりながら、危害の予防に怠りなく、作業の目的遂行を図っていただきたい。

⑤古い会員の方は、新しい会員に統制の取れた



イラスト・小屋 弘美

リーダー的な自覚で趣旨を伝え、個人的な作業集団でなく、水と緑のグローバルな育成に努めてもらいたい。

なぜ、参加人数が減ってきたのか？

いちばん最初に参加したときよりも参加人員の減少を感じるのは、花・鳥・昆虫に限定しない多

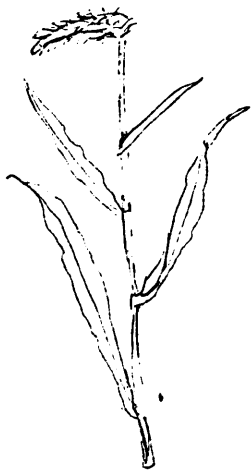
くの参加者は、会の趣旨に欺瞞を感じたのでなかろうか。

新しく参加した私には、多くの積み重ねた努力が実らないことは無駄あり、残念に感じてならない。古い人も新しい者も、切磋琢磨で磨き上げ、花や鳥・昆虫でない、われわれ人間の環境の回帰を創りたい。

## 赤塚城址裏の林の手入れと甘煮会に参加して 子どもたちの参加が目立った1日

運根・小屋 弘美

★ほかの作業のときにも感じるのですが、日本人のマナーの悪さにはただただあきれざるばかりです。今回も、ビデオカセットが約30本捨ててあるのが大変目に付きました。また、その他、ピン、カン等のさまざまなゴミがたくさん捨ててありま



イノゴクサ

イラスト・小屋 弘美

した。

★秋葉さんが5～6人の子どもを、かがみさんがお子さんを、高田さんもお子さんを連れて参加して下さり、子どもたちの活躍が目立った1日でした。子どもたちが自然の中で遊ぶことを覚え、それを思い出にして、将来この活動に参加してくれることを願います。

★お昼は、木村さんが豚汁をつくってくれて、山下さんが炊いてくれたご飯を女性隊がおにぎりにしました。吉村さんはおにぎりをたくさんつくってきてくれました。みんなで食べて、大変楽しいお昼でした。わたしは普段はあまり食べないのに、この日ばかりは美味しくていっぱい食べてしまいました。

★男性隊は、竹林の古い竹を使って階段を補修し、ニリンソウが自生している場所の囲いをつくっていました。その場所にある古い竹を使って、そういうことをするのは大変良いことだと思います。廃物利用で無駄がないと思いました。

# 8月2-3日 "荒川河川敷キャンプ" の報告

朝の参加者: ちが弘, 小野弘, 中川, 山崎, 内海弘, いたはし 荒川自然回復団 . リーダー  
 笠原弘, 栗林弘, 番谷弘, 遠藤弘, 佐藤弘, 小野弘, 山崎弘  
 かがみりよう

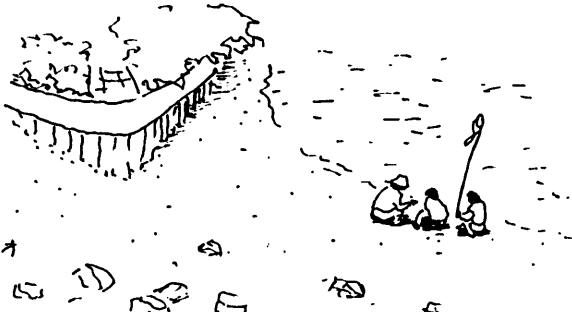
準備

前日の北部公園管理事務所<sup>管理事務所</sup>でネコ車<sup>ネコ車</sup>を貸して貰うというので、近くまで行ったが、その前に現地調達できないうるかど、河川敷へ見に行った。思ったとおり、野球場整備のために放置してあるのを発見。橋下の居住者にもたずねると、「いや」と快い返事をもらったので、管理事務所ではネコ車は借りず、レーキ<sup>レーキ</sup>だけ借り、ゴミ袋も買った。帰りがけ社会教育会館<sup>社会教育会館</sup>で大型テントを借りて行った。

当日は時々曇るものとても暑...一日だった。朝集まったのは大人8人, 小人3人。テントを2張りタープを柳の木の間へ張って陣地は完成。11:30となるが、頑強に入江のクリーニングをやろうということに。とりえず放置してあるネコ車を借用して入江へ向かう。

クリーニング

入江へ降りると、予定どおり干渉で干渉が広がっている。思っていたより広く、なかなか...感じ...ある。



入江付近にできた干渉で何かを探る様子

自転車, バイク, オートなどは砂に埋まって動かさず。ホイールタイヤ, ラジオ, テレビなどを拾う。水路へ入ってゴミがたまり積んでいる。ビン, 缶, いらすくろールなどをゴミ袋へ捨てる。

子どもたちは、カニを見つけたり、冷たい湧き水に身をひたして遊んでいる。これも大成功の作業だ。湧き水はきれいで干渉の上へ湧き出している。飲みたくなるほど冷たい。カニはゴキブリといたが、種類はクロベンケイガニとアサギガニの2種類だけないうか。

1時間半ほどで陸へあげる。ゴミを置いておく約束をした場所までの焚火台まで運ぶのがつらい。暑さとのどが渇きとつかみで、途中で休憩にした。保全課のパンちゃん(番匠さん)だけは元気この上なく、楽しそうに遊んでいる。(処分は公園課がやってくださる。)

話し合い

その時昼食をとり、話し合い。この日 坂本弘, 須藤弘, 木屋路弘くる。内容は、環境全体的な。進行、条件設定、田んぼの火種をどうするか...いんじけな...かて話も盛り上がる。その後汗を流してボール入ったり、カレーの準備に忙しかる。保全課の森課員も来て、花火を見ながら今後の活動について話し合う。

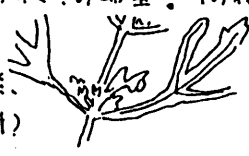
テント泊

花火のあとは、須藤弘がアコーデオンで様々な曲を披露して、さながら「パリのカフェの夜」に。テント泊は大人7人, 小人1人であった。

昆虫観察

翌日は、林を中心に昆虫を探し、木人は木陰で図鑑を見ながらという形で、昆虫観察をする。トンボは若者として、ウスバキトンボ, 行末アサギアイトトンボ, 木下にいるアサギアイトトンボの3種類のみ。バッタはシロウヨウ, オンゴ, トリガサ?の幼虫。その他は、ベニスマメ幼虫, ヒメコガネ, ウズラカメシ, ハムシ, ビバムシのなごま。

村舎の草のついでに、ムラサキの花, 紅葉, 葉は扇形, 田角... ヌシキ(シロ科) 帰化植物でした。



\* 柳葉さんと須藤のお母さん, 須藤弘, 栗林弘, 特におかげさまで... (ごはん) (2名, 2名とAcc.) (2名, おまじがた) (2名)

ヒメカメコハムシか?

# 8月10日 赤塚の森ボランティアでの昆虫探し、かがみりょう、

少し遅れていくと、みんな、キツネノカミソリなどを見学している。それを尻目に、今日は、トンボ達を見ておこうと、トンボ湿地周辺へ向かう。虫を探るのはボウだけかと思っながら、

クサギの花の香りがしてきて、クロアゲハが何匹も優雅にとんでいる。並アゲハはちがう所にとんでいる。アオスズメバチも何匹か見かける。草地に、モンシロチョウ、ヤマトシジミ、

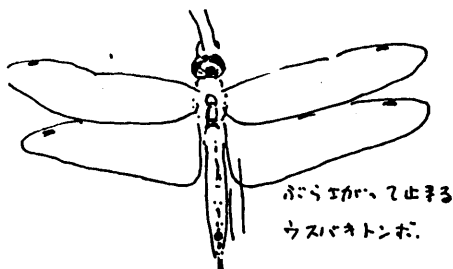
トンボ湿地近くの草地にウスバキトンボが群れている。昨年秋に見たまじいのに比べ、赤みがかつよい。アジサイなどの低木に何匹もぶら下がって休んでいる。

林の縁に張りわたロープにトンボが止まっている。ボツボツと少しずつ向かき置いて並んでいる。そと近づくと目の前で見る事が出来る。ノシメと半分赤くなったナツアカネだった。シオカトンボも何匹か見かける。

林の中では、とびたっては草の中に舞り回るアゲハの仲間がいる。一度ほかしたか、とろうとしたらにやられた。色・形・大きさの感じから、サトキアゲハか。

セミはミンミンセミ、アゲラセミがほとんどだが、あずかにツクツクボウシがいる。林床で見つけたセミは、ヒゲラシであった。今までは居て、声を聞きたかたか、帰ることに、

帰りに穿った少し東の林の縁のクズのヒコに、コミスジが、何匹かとんでいた。



ぶら下がって止まる  
ウスバキトンボ。



ロープの上に止まるノシメトンボ、  
ナツアカネ (赤はナツアカネ)

## かがみりょうのちょっと一言 「季節のたより」のすすめ

日頃、公園などを歩いていて「思ったこと」「感じたこと」を季節のたよりとして、公園課などへ、はがきを出してみませんか。

「落ち葉を踏みしめて歩いて素敵だった」

「草が生い茂って、バツタがいて楽しい」

などの言葉が自然回復の大きな力になるはずです。

会の方へもお手紙・通信をお願いします。

